

2015 年 9 月 15 日

第 4 号

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

すくらんぶる

NPO 法人 長崎県子ども劇場連絡会 NEWS LETTER

最新情報

11.28 嶋村仁志講演会
ワークショップ

12.1 祭典記録集発行

1.27 学習交流会

2.14 県フェス in 佐世保

子どもゆめ基金助成事業

子どもと文化芸術をつなぐ豊かな地域づくり講座

6月28日(日) 大村市民会館 大会議室

1. 基調講演『地域の活動を豊かにする子ども文化地域コーディネーターとは』
講師：中川幾郎（帝塚山大学名誉教授）
2. パネルディスカッション コーディネーター：森本真也子
パネラー：中川幾郎、千北充範、中村結花

6月28日、大村市民会館大会議室にて“子どもと文化活動をつなぐ豊かな地域づくり講座”を開催しました。

前半は、「地域の活動を豊かにする子ども文化地域コーディネーターとは」と題して帝塚山大学名誉教授の中川幾郎先生に基調講演、後半は、森本真也子さん(子ども文化地域コーディネーター協会専務理事)をコーディネーターに3名のパネラーと共に「全国の事例から地域づくりを考える」パネルディスカッションを行いました。

長崎県子ども劇場連絡会は、県内の子ども劇場と連携しながら長崎県子ども舞台芸術祭典を20年継続し、生の舞台芸術を届けることを通して地域で人がつながっていくことを目指してきました。この節目の年にこれからの祭典を新たな視点から考えあうために子どもゆめ基金の助成を受け、この講座を企画しました。

中川先生の基調講演は、まず日本がいかに関文化や人権の意識が低い国なのかということ、そして自分たちの自治体には文化振興条例があるかとの投げかけからスタートし、子ども、地域の危機的な状況、本当の市民とは？芸術文化を媒体として人をつないでいくコーディネーターの役割など具体的な事例を交えながらの興味深いお話でした。自分たちの集団がコミュニティ系集団なのかアソシエーション系集団なのかの検証、そして、まちづくりはひとづくり、楽しいことの共通体験が不可欠などキーワードをたくさんいただきました。

パネルディスカッションでは、中里皆瀬地区の千北さんや当団体の中村常務理事の身近な祭典の取り組み

の報告や課題などが話されました。コーディネーターの森本さんご自身の地域でのエネルギーで楽しそうな事例の紹介には、笑いや驚き、地域の様々な人がつながるおもしろさや大切さを実感することができました。

この講座で、市民としての意識を考えさせられたと同時に、祭典のこれからだけではなく、子どもの文化団体としての今後を考えていくいい機会になりました。

中川先生の言われた「外部に対しては言ったことは必ずやる！プロフェッショナルになること！」という団体としての社会化と、「文化は違うものをつなげるもの、異質のものがぶつかる時に出るエネルギーが面白い！」という森本さんの言葉が印象に残りました。子どもへの投資は未来を創ること、私たちが目指す“豊かな地域づくり”を会の中であらためて考えあいたいと感じました。



楽しいことの共有体験がなければ、コミュニティはなりたない。



第20回長崎県子ども舞台芸術祭典 51公演開催！！

子どもたちと生の舞台芸術との出会いを通して、子どもが生き生きと豊かに育つ地域づくりをすすめている長崎県子ども舞台芸術祭典。20回という節目の今年は、

＊2次離島を含む県内すべての子どもたちに生の舞台芸術と出会う機会を広げていくために、共感寄付や親和銀行ふるさと振興基金助成金、子どもゆめ基金等の申請をして、全体で50ステージを目標にする。

＊祭典を広く知ってもらうために、パレードをおこないアピールしていこう。

＊事前や事後の取り組みをとおして、地域実行委員会同士の交流をしていこう。

＊子どもと文化と地域について学ぶ講座やパントマイムワークショップの機会をつくろう。

を目指して、取り組みをすすめてきました。

日本一有人島が多い長崎県。その中でも2次離島といわれる島での公演実現は難しかったのですが、今年は、原島、長島(壱岐市)、度島(平戸市)で取り組むことができました。

また、新たに「Uki★うき たまてばこ」実行委員会(諫早市)が立ち上がり、それぞれの取り組みの工夫とエネルギーに私たちも大きな力をもらいました。

こうして、「地域の子もたちに生の舞台芸術の楽しさを届けたい」という想いが、12市6町での43主催、全47日51公演へと広がり、8,366名の参加につながりました。



満員御礼の昔ばなしのさんさん劇場。暑い！暑い！

今年は、祭典期間中に台風が接近し公演への影響を心配した年でもありました。公演が中止になった地域もあり、台風等への対応に関しては今後の課題となりました。

1996年にスタートした長崎県子ども舞台芸術祭典は、これまで20年間に、1,093公演200,115名に広がってきました。子どもの頃観に来ていた人が、今ではわが子と一緒に観ることを楽しんでいるというつながりも生まれてきます。継続は力であり、宝だと感じています。

■ パレード 5月31日 長崎市

5月31日、もっと祭典をアピールしていこうと“あなたの町にお芝居がやってくる！”の横断幕をかがね、長崎市民会館前広場から浜の町の鉄橋まで総勢50名でパレードをしました。

乳幼児から大人までそれぞれ仮装をしたり、風船などを持ったりしながら宣伝して歩きました。沿道の方々が微笑ましく見守ってくださる中、元気な声でチラシを手渡したり、祭典のことを伝えたりとアピールすることができました。最後の鉄橋では、チカパンとたっちゃんのパフォーマンスで最高に盛り上がりました。みんなで歩くとても楽しくて「来年もまたやりたい！」との声も聞かれました。



鉄橋の上でチカパンとたっちゃんの
パフォーマンスに大喝采！

■ パントマイムワークショップ 5月30日 佐世保・諫早

子どもゆめ基金助成事業

31日 長崎

チカパンを講師に定番の動かない靴、壁、風船や自分の好きなことを表現して楽しみました。3か所で80名の参加がありました。



北村直樹さんのプロの技を間近で見て感激！

■ 事前交流会 5月30日～6月9日 各地

公演を前に創造団体と出会い、作品について話を聞きながら公演当日への期待を膨らませ、取り組みの力にする事前交流会。作品に込めた想いや作品を通して子どもたちに伝えたいことなど、創造団体の皆さんから色々なお話を直接聞くことができ、公演当日が楽しみになってきます。人形劇では、登場する人形の動きを目の前で見たり、直接触れたりすることができるのも事前交流会の魅力のひとつです。

創造団体の皆さんも、地域の方々の想いに触れて、公演への思い入れや気合が高まります。

■ 本公演 7月10日～28日 県内各地

6創造団体による6作品が県内各地を駆け巡り、今年もたくさんの出会いがありました。

印象深かったのは、初めて取り組むことができた、吉崎から三島フェリーに乗って行く2次離島、原島と長島の公演です。

この3月に閉校となった、それぞれの島にある分校の体育館と講堂に、久しぶりに島の人たちが集いました。会場は、まるで大きな家族のような雰囲気、おじいちゃんたちも童心にかえったように、子どもたちと一緒に公演を楽しんでいました。公演後、三島小学校の校長先生が原島に行った時、島の人でも大変喜んでいて、会う人会う人、面白かったねと、言われたそうです。閉校した体育館がとても賑わって、島の人とても嬉しかったそうです。公演できて本当によかった！と、吉崎子ども劇場の方から連絡をいただきました。

また、同じく初めて取り組んだ「Uki★うき たまてばこ」実行委員会では、働いている人、子どもがいる人様々なので、昼と夜の実行委員会を重ね、役割分担をしながらいいにに取り組んだそうです。そして、当日の子どもたちの楽しんでいる様子に、来年も取り組むことを決めました。他の会場でも、地域の取り組みならではの安心感



あれれ！ひょうたんから不思議な音が ♪風の子九州

と一体感に包まれ、子どもたちとたくさんの感情のキャッチボールができたようです。会場にいる大人にとっても、子どもたちの様子に心を動かされ、楽しさと共に元気をもらうことができました。子どもも大人も、こういう一つひとつの体験の積み重ねが、豊かさにつながっていくのだと、実感することができました。

■ 事後交流会 7月29日 大村市コミュニティーセンター

全51公演終了後の7月29日、実行委員会、創造団体、推進委員が参加して事後交流会を開催しました。平日の開催ではありませんでしたが、22の実行委員会から43名の皆さんの参加がありました。前半は、取り組んだ創造団体と一緒にパフォーマンスの発表。同じ作品に取り組んだだけあって、実行委員同士の間も嬉しそう。それぞれの作品にちなんだパフォーマンスはどれも見事な出来栄で笑いの連続でした。

後半は、創造団体も交えて取り組みの交流と地域別交流。短い時間ではありましたが、それぞれ実行委員会の課題を共有したり、工夫したことを出し合ったりすることで、今後の参考になる交流ができたようです。

第20回をふりかえり、これからの3年、5年先をどう描いていくか、財政の安定、地域スタッフを増やすことなど課題解決に向けて、新たなスタートにしていきたいと思います。



Uki★うきたまてばこ

実行委員長 野田告枝

満席の客席を見た時は、喜びがわいてきました。公演中は笑いがたえず、子どもだけでなく、大人もいい顔をして劇を見ている姿を見て「本当に取り組んでよかった！！」と思いました。自分以外、子ども劇場の会員はひとりもいなくて、実行委員のメンバーも半信半疑の中で準備をすすめてきました。でも公演終了後すぐに「また来年もやろう」「次は夜公演をやってみよう」「お母さんたちのネットワークを使って広報しよう」など実行委員メンバーから次々意見が飛び出してきました。ほんとうに地域がひとつになれる事業だと思います。来年もがんばるぞ！



男性の活躍で、搬入搬出もあっという間！

NPO 法人
長崎県子ども劇場連絡会

〒850-0057
長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533
FAX: 095-825-6151
E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場
ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533
佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

はさみ子ども劇場
TEL: 0956-85-4273

Web サイト

URL:

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

★編集後記★

9月5日の朝日新聞に教育学者の大田堯さんの記事が載っていた。その中で『『平和』の反対と云えば戦争、暴力、貧困とかいろいろあるが、僕は『無関心』があると思う。』とおっしゃっている。

安保法案が、違憲との声が多い中、強行採決された今、主権者としてより大きな関心を持っていかねばいけないと思う。

SEALDs のメンバーが「日曜日にデモになんか行きたくない。渋谷や新宿で遊んでいた。でも今行動しなければ渋谷や新宿で遊べなくなる日が来るかもしれない」と答えていた。

もうひとつ！自分の生活と政治をつなげる想像力も絶対必要だと思う。(N)

講座のお知らせ

子どもゆめ基金助成事業

嶋村仁志講演会&ワークショップ

子どもにとって「あそぶ」ってなんだろう

～子どもの「育ち」の一番面白いところをうばっていませんか？～

日時:11月28日(土)1部 講演会 10:30~12:00 (定員 80名)

2部 ワークショップ 13:00~15:00 (定員 30名)

会場:諫早市立 たらみ図書館海のホール 参加費: 500 円



団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に2003年にNPO法人として活動を開始しました。

長崎県内にある5つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。

「長崎県子ども舞台芸術祭典」、「長崎県子どもと文化フェスティバル」、講演会や学習会などの事業を行っています。

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！
私たちは子どもの文化を応援します。

長崎角煮まんじゅう
岩崎本舗

立石産婦人科医院

諫早市栄町 7-6
TEL0957-22-0292

医療法人 藤島内科医院

〒854-0072 諫早市永昌町43-6
TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220

佐世保の中心、ビジネス&観光に。
セントラルホテル佐世保

〒857-0872 佐世保市上京町3番2号
Phone 0956-25-0001
0120-69-0511

一般
財団法人 長崎ロープウェイ・水族館
長崎ペンギン水族館
Nagasaki Penguin Aquarium

白山陶器株式会社

〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334
TEL. 0956-85-3251 FAX. 0956-85-6630

ホテル周辺にはコンビニ・飲食店街あり。
全客室ネット接続無料！有線LAN・Wi-Fi回線完備

ホテル
ウイング・ポート長崎
095-833-2800 JR 長崎駅より徒歩3分
<http://www.wingport.com>

ホテル ジャノメ

諫早市永昌東町 1-39 [JR 諫早駅前]
TEL.0957-22-0529
FAX.0957-22-3181